

## 「ホテル業界アカデミー賞」温泉宿

広島県江田島市の江田島荘が「ホテル業界のアカデミー賞」と呼ばれるワールドラグジュアリーホテルアワードの温泉宿部門で10月、国内初の世界最高位となった。日本には名だたる温泉宿が数多いのに、江田島荘の取り組みから瀬戸内観光の新たな可能性も見えてくる。

# 広島・江田島荘 世界トップ



江田島荘は2021年7月に開業した。全客室が瀬戸内海に面し、1700坪の地下から湧く温泉を設けている。阿部直樹総支配人は世界最高位の理由を「江田島にこだわり尽くしたところが評価された」とみる。料理や内装に島の素材を徹底的に活用している。食材は地元の漁師や農家から直接仕入れて使う。代表例が島に生息するイノシシだ。料理長らスタッフが肉の加工業者から仕入れるだけでなく、時には狩りにも同行する。野菜も農家と組んで植えるところから一緒に手掛けることもある。内装は地元で織られた紙布の壁紙を使っている。壁紙や照明、鉛筆まで江田島に関連するストーリーを作り、チェックインの際に宿泊者へ伝えている。約60人の従業員は9割が江田島の出身だ。地元の豊富な知識や誠意ある対応で多くのリピーターをひき付けた。現在の客室稼働率は約8割で好調だ。

## 料理・内装に地元素材 瀬戸内の島観光に光

瀬戸内海には700を超える島がある。江田島らしさに徹底的にこだわった江田島荘の手法はほかの島でも通用しそうだ。阿部総支配人は「まだ開発されていない島々があり、いずれもちゃんと魅力はある」とみる。例えば江田島のそばにある倉橋島(呉市)。標高408坪の火山に1時間ほどかけて山頂に登れば360度広がる「多島美」の絶景を見渡せる。カキやちりめんなど海産物もふんだんにあり、まだそれほど知られていないが観光資源は豊富だ。瀬戸内の観光で有名なのは宮島だが、それぞれの島が自然と共存しながら独自の魅力を引き出す開発を進めれば、多様性に富んだ島々を周遊しようという観光客をもっと誘致できるだろう。瀬戸内観光は大きな潜在力を秘めている。(宮沢徹)